京城新聞

●農商工部の注意要件（各道觀察使に對する）

商工に關する事項

一、旅閣

從來旅閣中に有文券旅閣と稱するものあり政府の特許を得て獨占的に營業し來りたる弊ありたるを以て曩に本部大臣は各道觀察使及び漢城府尹に向ひ訓令を發し此の如き獨占的の營業を禁止せしめ且其の有する文書を引上ぐべき旨命じ置きたるも依然有文券と稱して營業の自由を妨害し或は不法の金員を徴し居る者あるやに聞くあり又文券を有せざる旅閣中にも右同樣の非違を爲す者あるが如し依て此種の營業者に對して相當の取締をなし以て積年の宿弊を打破し違法の所爲なき樣注意あらん事を望む

二、會社

近來會社の設立請願を爲す者頗る多く本年三月以來既に數十件に達せり然るに其の請願者の多くは會社の何者たるを解せず恰も一種の特權を政府より下附せられて獨占的の營業を爲し得るものゝ如く[illegible]の發達を阻害するの事實あるを認めらる而して其の請願人の身元調査を所轄警察署に囑託して得たる報告によれば彼等は資産又は信用に於て疑ふ可き者多く到底設立の任に堪へざる者あり去れば既設の會社に付ては能く其の內容を調査したらんには之と同一のものゝ亦尠からざるべし凡そ會社の監督に關しては追々法令を以て之れを定むべきも現況右の如きを以て此れが取締に關しては相當注意あらん事を希望す又今後設立請願者の身元調査に就ては警察官吏の內偵を煩はしたきを以て其の場合には充分の調査を遂げて報告あらん事を望む

三、市場

韓國に於ける市場は商業上主要の機關たるにも拘らず從來種々の弊害伏在して往々紛爭を惹起し當事者相互より本部に訴出せるもの尠からず依て弊害の存するを除き此れが取締に留意あらん事を望む

以上は過般觀察使及び道書記官會議の際指示せる事項の一にして當警察事項に屬せざるものあるべきも各種の機關整備せざる現時に於ては警察官吏を煩はし此れを調査し此れを取締るより以外に途なき場合少からざるに付玆に各位の注意を求めたる所以なり

山林に關する事項

一、國有森林に盜伐ありしときは直ちに報告ありたし

二、右報告には左記各個の具備するを要す

い、道郡面里及び國有林名

ろ、樹種

は、本數

に、見積價格

ほ、差押物件あるときは其の數量及見積價格

三、前項五の報告を受けたるときは場合により其の處分を依囑することあるべし

四、森林法第十條乃至第十四條の犯罪者ありたるときは其の犯人住所氏名及び刑名並處斷年月日を報告ありたし

五、森林法實施後は國有森林の處分に就ては農商工部大臣の處分に依らざるべからず故に郡守其の他に於て昔日の習慣を墨守し違法處分をなすが如きことなき樣注意を望む

六、森林の取締を一般警察に依頼するに就ては警察官に森林思想を養成するの必要あり重なる駐在所の庭園に播種すべき樹木種子を配付したし適當の駐在所名を指定せられたし（未完）

●七月の京城氣象（京城測候所調査）

本月平均氣壓は七百五十一粍九にして前月より零粍六の低落を示し低氣壓の通過稍頻繁にして就中二十一日午前黃海道李島沖に顯はれしものゝ如き甚だ深厚ならざりしも其通過に際しては京仁地方に近年稀なる豪雨を降下したり氣溫は前月より二度六上昇し二十三度六にして恰も橫濱新潟の七月平年氣溫に伯仲せり月中變化は上旬順當なりしが中旬より頓に暑氣を催進し二十日頃一旦低落せしが二十三日より漸次上昇して二十四日に至り月中高極三十二度九を顯はしたり風向は北東風多く暴風日數僅々一日なりし降水量は實に稀有の多量にして前月に比し約五倍又從來本地方降水年量より云へば約其五割を降下したるに等し就中二十一日及二十二日に最多にして二日間の降量合計三百五十二粍に及びたり蒸發量は降水量の約四分の一にして前月に比し三十一粍少く天氣は上旬及中旬に晴天多かりしも下旬は殆んど雨天を以て連續し快晴日數は僅かに一日を算したるのみなりし

平均氣壓		七五一、九
溫度	平均	二三、六
	最高	三二、九
	起日	廿四日
	最低	一四、七
	起日	六日
平均溫度		八二、
降水量	合計	五三〇、三
	日最多	一四〇、九
	日	廿一日
蒸發量（合計）		一三五、六
日照時數（百分率）		四〇
風	平均速度	三、七
	最多風向	北東
	最速度	一〇、二
	方向	東南西
	大日	廿九日
天氣	雨	一五
	雷	二
	快晴	一
	曇天	二〇
	濃霧	三
	暴風	一

（註）氣壓、降水量、蒸發量は「ミリメートル」氣溫は攝氏、風速度は平均一秒間「メートル」を以て示す

寄書　漫筆　大庭生

△世に需用者あり、供給者ありてこそ、有無相通じ、社會成る、社會の發達文明は、偏に分業法に俟つや大なりと云ふべし

△競走のある所、文明あり、文明のある所又必ずや競走なかる可らず、由來文明と競走とは、離る可らざるの社會的原則を有す

△顧に人は生んが爲に煩悶するの動物なら懊惱するの動物なり、競走するの動物也人生は畢竟優者の必存、劣者の必滅に終る也

△聞說日本婦人の出稼は、淫賣に在りと、淫賣素と社會的需用の結果のみ、敢て之を咎むるに吝なれ、夫れ勞働は神聖と知らずや

△一夜、絃妓侍りて、克く喋り、克く歌ひ氣欲又昂る、友啞然言ふ所を知らず、鷄林八道の經營は、須らく娘子軍に委ねて可也

△倭城台に音樂を聞く、奏者懸命なり、而も指揮官の煙草を含んで、樂師を指揮するを見るに至つては、軍隊遂にヨボ化せり噫

△曰何宗、曰何教と我利々々亡者連盛に世に蔓る、彼等多くは眞箇精神的渇仰の信徒に非ず、一時の糊塗崇拜者に過ず、斯くして神宿るとせば、萬智萬能の神是れ暗愚也

△信仰何者ぞ、人は神によつて生くるに非ず、人の命を繫ぐは、パンに若かざるなり、噫パンなる哉、知らずや學者千萬言の空說よりも、一片のパン尙萬金の價値あるを

△朝鮮は髯の國なり、言を換へれば鼻下に八字の髯へなきものゝ扱はざる國なり、淫賣屋の宿六髯あり、氷屋の亭主又髯あり、各店舗の主人公髯を捻つて接客す髯なる哉である。

△擔ひ棒に跣足の水汲み總髮連を見よ、橫には太く縱には短く步む姿は、アヒルに文庫箱を負せたるやう、君笑ふを止めよ、第二の健全なる國民は、斯くして生るゝなり

△眞瓜市に滿ち、ヨボもチヨンガも大道に之を嚙つて得意なり、韓人は眞瓜の時季には之を常食とするを以て、爲に米價下落すなりと友はいふ、强ち眞赤な嘘にも非ず

小說　新不如歸（八十五）　篠原嶺葉著

百合子は又も絹帕に包むだ品を淸子の手に渡して、

「そして、こ、これは金時計と、指環とですがね、敏男さんから貰つた大切の品ですから、どうぞこれだけは、私と一緒に……」と云ひさして、新に湧き來る涙に、聲はいよ〳〵絶〳〵に、



「う、うつめて下さいな。」涙は滾々と痩せたる頰を傳つて、敷布の上を濕すのである、淸子は徐に其涙を拭ひやり、辭はなくて頷くのであつた。百合子は、思ひしことを賴むで安心したのであらふ、また目を閉ぢて昏々と睡るのである。同胞も及ばぬばかり睦み合ひたる百合子の、忽ち急に忽ち幽に、今にも絶なんと如き呼吸を眺めた淸子は、胸一ぱいになつて、最早堪へられなくなつたので、目を覺させぬやう密と起つて、次の室の襖を開いた、容子如何にと待構へたる先の人々は、音せぬやうに入り來つて、病床の左右に座つて息を殺して眺むるのである。やがてまた、目を開いた百合子は、「姉さん、忘れんやうに賴みますよ」と云ひ了つた時、又も苦しさうな咳をして、「あゝ苦しい……苦しい」と痩せたる手にて胸の邊を掻き悶ゆるのである。

醫士は心配さうな顏して、徐に百合子の胸に手を加へて脉搏を試みて居たが、看護婦に指揮して白葡萄を取り、手づから一匙を口中に注ぎ入れた。すると、靑白き顏にほんのりと紅が潮したと思ふと、最早それと虫が知らせたか、「母樣……御、御機嫌よろしう。」と、其の力なき手に母の手を少に握つて、涙に閉ぢた目を瞬つて懷慕さうに目詰めるのである、母は其顏を見て、はら〳〵と流れ出る涙を、すゝり泣くのであつた。すると、母の手を殘り惜しげに放して、「姉さん、御機嫌よう……兄樣によろしく……」と、又も其手を握つて別を告げた。折しも親戚の某は、やゝ急き込むで今しも一人々々に別を告げつゝある病床に來て、一葉の號外を槇子に渡した。槇子は仔細ぞあらんと、涙の目を拭ひつゝ讀み下して、今や絶なんとす、百合子の耳元に口を寄せて、

「百合さん、義祐が支那の遼陽と云ふ所で大さうな働きをして、三十萬からの敵軍を一人で破つたゝめに、復職を許されましたと、陸軍少佐に陞進して、そしてた、前の敵の足柄少佐は敵のために胸を打拔かれて戰死を爲ました、さぞ嬉しいでせうね。」と、またも其心の中を察つして涙ながらに言ひ聞かすれば、

「母樣……もう思ひ遺すことはありません……姉さん……先刻のことを……よろしく賴みます……左樣なら……御、御機嫌よ……」

と云ひ了つて、微しく唇の戰くと見ねしが、見る〳〵中に瞼を閉ぢて、眠るが如く幽界の人とはなつたのである。槇子、淸子を始め、親戚の人々は、今更の如く泣き悲しむで、森々たる室內は鼻をすゝりあげる響のみ聞ゆるのであつた。

憲兵補助員に就て 解散可ならん乎

憲兵補助員募集の規定を發布せられんとする當時、余輩は其不可なる所以を痛論して當局者に警告したるも、當局者は何の見る所ありてか、馬耳東風更に顧る所なく之を實行したり、當時余輩は惟へらく當局者何ぞ短見淺慮なるや、何ぞ韓人を解せざるの甚だしきや、其豫期せる如く、渠等によりて地方の安寧秩序を保つこと能はざるのみならず、害毒を流すに至り終に失敗に歸するは明なり、舊鎭衛隊の地方に於ての行動に徴すれば弊害の續出することは明なり當局者何故に斯る見易きことを誤れる乎、其愚や及ぶ可らずと慨歎したりき、果して余輩の警告は適中せり、頃者地方よりの報道に依れば補助員中には良民を誣ゆるに暴徒と通せるものとなし威嚇して金品を貪るもの尠からず、良民にして之に應ぜざれば權威を以て縛するものあり、斯る暴行を逞ふする渠等に向て地方の安寧秩序を保たしむるは、恰も盗人に向て鍵を與ると同じからずや、然れども當局者驚く勿れ、是れ當然の結果なればなり、之れが弊害を除かんとすれば斷然補助員なるものを廢するにあるのみ、此弊害を矯正せんとして徒に制裁を加ふるが如きは斷じて非なり、假令嚴正なる制裁を加ふるとも、唯之れ表面のみ其精神を改造するにあらざれば其弊害を除く能はざるなり、是等の事は舊鎭衛隊によりて屢々經驗せられたり、之に制裁を加へて全然弊害なきに到らしむることは一朝一夕の能くする所にあらざるなり、世人は憲兵補助員の設置を以て鎭衛隊の復興も同樣なりと云ふ、實際に於て余輩も亦此感なきに非ざるなり當局者と雖も實際の狀況を見るに於ては必ず余輩と感を同ふするならん、渠等補助員を地方に送りてより僅々二個月に過ぎず、然るに暴行の情報頻々として來る、何ぞ渠等の本能を發揮するの迅速なるや、斯くあるべきを洞見せる余輩と雖も呆然たらざるを得ざるなり、弊害を豫想せずして良好の結果を豫期したる當局者の痛心知るべきのみ、

元來余輩は韓國人に銃砲及刀劍を所持せしむるの甚だ不可なるを思ふ、如何なる事情あるも韓國人に銃劍を與へ以て暴民鎭撫等の事に當らしむるは保護統治上の妨害たるを感ずるなり、鎭衛隊の解散は此意味に外ならずと信ずるなり、舊鎭衛隊によりて我邦人は幾多の苦き經驗をなせり、憲兵補助員は唯名を異にすると取締法の異れるのみ其實質に於ては同一なり、故に地方の良民に對して驕慢暴行を逞ふするものあるも決して怪むべき事に非ず、此弊害を除かんには斷然之を解散するの外なし、當局者は未だ弊害の大ならざる前に雄斷の處置なかる可らざるなり、

●漢城便り

▲韓太子の見學旅行に同行せる伊藤大師此炎天にも拘わらず例の筆法にて一生懸命誠意誠心の廣告に勉め居られ候太子の父上や叔君乃至兄皇帝に於ては嘸や老人の勞を謝し居られ候事と被察候併し余輩に於ては公の心情を汲みて一滴の涙を禁ずる能わざるものに候

▲公にして老ひさりせば韓の民心を信服さするの手段は他に幾らも案出せられ候事と存候、惜哉、當年の俊介、今は英親王のお相手が關の山と相成申候對韓經營などは最早公に望むべきことには無之候

▲朝鮮人に物を與ふるは可なり彼を世話するは可なり而れども與ふるに因つて世話するに因つて彼等をして當方の親切を悟らしめんとするは不可なり英親王に對する大師の誠意は百萬年たつとも韓民の感ずるところとならずして終るべきことを斷言致候

▲憲兵補助員の亂暴ソロソロ世に現われ來り申候ハワイ國の糖業者は曾て甘蔗に對する鼠の害を除かんが爲に鼬を輸入致候其鼬今は大に繁殖して鼠を退治する代りに鼠以上の美味なる手近の家鷄を退治致候人意は兎角地上に行われ不申候

▲同業朝鮮日々は今に解停相成不申候昨も申せし通り主義には殉せしむべし新聞規則には殉せしむべからず當局官憲たるもの雅量を示して可然と存じ候

▲十九日發行朝鮮新報の記事中京城在留外人間の問題と相成居るもの有之候統監府殊に同府の外務部が右の記事に關して傷くなき腹を探られざれは幸甚に御座候

東京電報

▲嚴妃の渡日

嚴妃には十月上旬渡日のことに決定せるを以て女官其他歡迎方法につき準備中なり（二十日發）

雜報

●拓殖法案の決定

東洋拓殖會社創立に關する法案は統監府に於て再三會議を開き審議する所ありしが十九日の參與官會議にて全部之を決定したるを以て同日統監邸に開きたる大臣會議に廻送されたれば各大臣は一昨日昌德宮內の內閣に參集し內閣會議に提出し統監府より石塚參與官列席して之れが說明をなし審議の末愈よ議案全部を決定したる由にて來る二十七八日頃日韓兩國の官報を以て同日に發表さるゝこととなりたりと又創立委員は三十日頃任命せられ九月十五日頃東京に於て創立委員會を開かるゝなるべしと

●營業報告と對物信用　某銀行家談

●●●營業報告　不景氣の結果本年上半期の銀行會社の營業成績は概して良好ならざるが新聞廣告に掲げたる營業報告のみにては十分に其眞情を示さざるべし何となれば取立て得べき利息收入ある場合に之を取立てず後期の計算に繰延べたる時は會社は利益を減すべく即ち營業報告には所謂利益を隱蔽せる場合なきに非ざればなり

●●●對物信用　世人は韓國に於ける銀行が何を擔保として貸附を爲すものなるやを疑ふべきも此疑は實際に於て尤にて株式等の多からざる當地に於ては重に不動產を割引の見返り擔保として充つるなり、されば內地に於ける株式の暴落などに因つて銀行が損失を受くる杯の事は當地に於ては殆んど皆無なるも見返り擔保に充たる土地家屋等の今日の如く始末に困まる場合に於ては銀行の受くる損失迷惑は一方ならざるなり、而れど此事あるが爲に銀行が見返り擔保を取らざるに於ては其蒙る損失迷惑は今日より一層甚しかるべし、[illegible]信用に就ては多くの場合多少の危險を踏めば亦相當に貸出金の利廻りを見ることを得べし、茲に甚だ奬勵すべくして而かも割合に危險多きは對人信用なり債務者にして破產したる場合に於ては往々巨額の損失を崇ればなり、只對物對人何れにしても銀行が多少債務者をして恢復せしむるの緩手段を以てせざれば却つて損失を多くするの憂あり、元來債務者なるものは金を受取る迄の態度と其後の態度に於ては大に異なるものなるが故に銀行者にして眞に此間の消息を解し可成回收の場合に緩和の手段を執らざるに於ては見事却つて債務者に反噬せらるゝことなきにしもあらざるなり、要之するに銀行の事は營業報告を見たる許りにては營業狀態の明かに解せらるゝものにあらず云々

●京釜の公債分配

元京釜鐵道清算事務所にては去る十一日を以て各株主に對し公債及び端數現金の分配を通知し爾來株主の請求により分配中なるが何分株劵と引換に登錄濟證を交付することなれば手續頗る面倒なるのみならず株主は非常の多數にて而も各地に散在し居れる等の事情より全部の交附を了るには少なからざる時日を要すべしと云ふ

●生駒の仁川入港期

第二艦隊生駒は目下仁川附近海賊討伐中の千早の應援として十七日吳出發仁川に向ひたる筈なれは今明中着仁すべし

●艦隊出入

去る十四日仁川を拔錨して海賊出沒地巡邏の爲め海城方面に向ひたる軍艦千早は十八日一先歸仁し入港中の水雷艇、鶉、鵲と何事か打合せをなしたる結果鶉、鵲の兩艇は一昨日仁川を發して海州方面に出發したり、尚千早も昨日午前仁川を解纜して同方面へ急行せり

●工作所問題協議

豫定の如く昨日午後一時より民役所樓上に於て第二回有志會を開き工作所問題に付き協議したり

●通關取締規則實施

仁川通關業者取締規則は愈々昨日より實施することとなり該規則になる營業免許者は既に九名の多きに達したるが稅關に於ては該規則を脫して保證金を加入せず密に營業するものを取締せんが爲めに右出願者をして通關組合を組織らしめ以て組合をして規則違反の營業者を監視せしむる方針なりといふ

●賊徒討伐情況

△北靑守備隊の中尉以下の討伐隊は八月一日洪原東南北方山中に於て約五十の賊を潰走せしめたるも賊の損害詳かならず同討伐隊は更に八月三日賊を追蹤して一名を斃し銃器一彈藥雜品若干を鹵獲す

△北靑守備隊の下士以下十一名は八月十二日北靑西北方通八嶺附近に於て員數不明の賊を襲ひ十二を殪し銃器鹵獲す

△忠南洪州の[illegible]補助員五名は八月十五日泰安郡安眠島の北端にて約二十五の賊と衝突し其二十一を殪し十一名は溺死す鹵獲品銃器其他雜品多數

△慶北安分遣所の憲兵三名は七月廿六日英陽の東北古道に於て約十の賊と衝突し一名を殪す鹵獲品雜品若干

△慶南河東守備隊の上等兵以下六名は巡查二名と共に八月六日河東北方約六里に於て約三十の賊を討ち三名を殪し火繩銃彈藥若干を鹵獲す

△慶南咸陽守備隊の上等兵以下五名は咸陽東北方二里に於て八月十日約二十の賊を討ち七を殪し若干を傷け火繩銃三雜品若干を鹵獲す

△全南靈光守備隊の上等兵以下六騎中八月十一日靈光東南約三里に於て十餘名の賊に遭遇其二名を殪す

△全北南原守備隊の少尉以下九名は八月二日約三十の賊南原西方楔樹驛東南約一里に在るを知り急行せしが賊は逃走中なりしを以て追擊して其二を殪せり

△忠南泰安駐在所の巡查は瑞山駐在所の巡查と共に八月十三日泰安郡內に於て約十六の賊を討ち二名を捕へ銃二雜品若干を鹵獲す賊の死傷不明

△光州第二巡查隊は八月十五日順天郡內に於て二十餘の賊を討ち四を殪し三を捕ふ

●●●●泰仁暴徒の歸順

本道觀察使李斗璜氏及中野守備隊長が道內にて最も注意すべき危險地を巡回し過ぐる處懇々順逆の理を訓諭し去る十日無事歸着せる事は既報の如くなるが一行巡視中の最終日即ち去る九日泰仁に於て李觀察使は人民を集めて懇篤到らざるなかりし結果之れに感動して暴徒の歸順する者廿三名の多きに達したるが李氏は彼等が非を悔い飜然として良民たるに至れるを衷心感喜し其正業を求むる迄の經費として各一人に對し葉錢五兩宛を惠與せしに歸順者は孰れも觀察使の仁恕にして寬容なる精神に感泣したりといふ涼台部避老里といふ暴徒の巢窟とも目すべき人心險惡の場所に於ては中野守備隊長の至誠溢るゝ訓諭の結果四十零名の歸順者を出すに至れり要するに今回一行の巡視は精神的感化の至大なるものあり其効果は砲火の威力に力ること萬々なりしなり

●露裝せる暴徒

北韓西水來に於て大成組漁業者が暴徒の爲め慘殺せられしことは當時の紙上に記せし其後の報に依れば去四日午前四時約三十名餘の暴徒は何れも茶褐色の服を着し露人用の帽子を冠り巧みに漁夫等を包圍銃殺せんと計りたれば山に登り或は黍畑に潛み避難せるも遂に十一名の即死者六名の重輕傷者を出すに至りたりと偶ま難を免れたるは斷崖絕壁の岩蔭に匿れたる者二名韓人服を着換へて免れたるもの一名のみなりし斯くして暴徒等は悠々金品を奪ひ去りたるが被害者の全部は新潟縣中蒲原郡人にて[illegible]漁季に入り其準備も整ひたるに此遭難以來何れも危險の念を懷き躊躇の傾きあるを以て當水產組合にては適宜保護を與へんと目下協議中なりと云ふ

●●●農事通信

勸農會扶餘郡日勢村の農場は創業以來三十九年の水害に引續昨年の旱魃の爲め農民の離散するもの少からず在留民は同農場の將來を氣遣ひしものありしも本年は農場開始以來曾て見ざる植付をなし其後も降雨順を得たれば收穫は平年に比し約二割强となるべく又離散せし農民も近來復歸するものあれば將來は有望なりと大豆の收穫期は九月なるが現今の作柄は非常の豐饒にて今後甚だしき天災のあらざる以上大勢は既に豐作と見る得べしと　韓國本年の米作は古今未曾有の豐作にて全韓を通じて平年作の二倍以上に達すべく大田方面稻穗生育の狀況は其株の太さ例年に倍し一株例年二十位の穗付けるもの本年は五十以上の穗付居り仁川附近は例年植付出來ざる例なるに本年は不完全ながらも插秧を終りたる程なる等一般を豫想するに難からず全州平野の豐穰なるは勿論群山附近高地低地も降雨の度適良にて非常の豐作なることを示し居れり

●棉花採種圃概況

全南地方の棉作が概して上作ならざるべしとは一般の想察する處なるが一概に左に非らざる如く光州、南平、伏岩方面の各棉花採種圃は土用入前後よりの炎暑に作柄を持直し現今の模樣にては上作なるべしとは千葉技手の談次ぎに右水營、珍島方面のものは氣溫比較的高度ならざりしためか先づは思はしからざる作柄なれど悲觀する程にはなかるべし本年度の作付は昨年に比し餘程の增加なれば平均收穫が昨年より多量なる事疑なしと

●群山産繭の輸出

群山地方の韓人有志者が今春來蠶兒の試育をなし相當の成績を収めたるは別項の如くなるが未だ其生產品を蒐攬く機關なきより當模範場は農商工部に對し是等の生產品を一纏に買上げんことを交涉したるに同部は其買上げには應する能はざるも周防岩國の義濟堂へ送りつくれば何時にても時價にて買上ぐるにより同所へ廻送すべく其運賃は同部之れを負擔する旨の回答ありしを以て別項養蠶組合に於ては之を機とし組合員生產の繭を一纏めとして輸送することゝなり十九日已に其荷造を了したるが其數量は二石なりといふ

●群山地方の秋蠶

勸業模範場群山出張所を始め當地在留の本邦人及韓人間には今春來養蠶の試育を爲すもの多く幸に春蠶夏蠶ともに好成績を占め目下秋蠶も四眠を經て一兩日中には上簇する筈なるが成績は何れも好良なりといふ

●議員の辭職

過般京城民會議員總辭職の際不在の爲め獨り行動を共にする能はざりし民會議員關繁太郎氏は十八日愈々辭表を提出したり

●●●●鹽谷青山氏歡迎會

第一高等學校教授兼東京帝國大學文科大學教授鹽谷青山氏は既報の通り滿州より歸朝の途十八日夜來京したるを以て氏に緣故ある在京の諸氏は一昨日午後四時より第一銀行俱樂部內にて氏の歡迎會を開き氏の薰陶を受けたる人の擊劍仕合あり七時より花月樓に歡迎の宴を催し倉富法部次官、淺見法務院評定官、鈴木度支部司稅局長、鶴岡農商工部書記官、三浦理事官、中山、荻田兩統監府書記官、高橋與銀支店長、小林財務監督局長、大阪商船支店長其の他三十餘名の出席者あり頗る盛會なりき因みに同氏は乃木大將の依囑を受け旅順口に建設さるゝ忠魂碑の碑文を起草するため同地の現狀を視察して其の參考に供する目的にて渡航し其の途次滿韓の各地を視察したるものにして到る處氏の門下生多く各地にて歡迎を受けたる由にて當地を昨朝南大門發急行列車にて出發し直ちに歸京したりと云ふ

●久松伯爵出發

滿洲より入京滯在中なりし步兵中佐久松定謨伯及び隨員臼井中佐の一行は一昨日出發歸朝の途に就かれたり

●●●●和田觀測所長の出張

和田觀測所長は來る廿四日新廳舍新築調査の爲め大邱、元山に出張一週間滯在の見込

●●●●特許局事務官

特許局事務官兼衆議院書記官人見次郎氏は統監府特許局事務官に任せられたり

●叙勳と任命

特叙勳七等賜太陽章　警視廳巡査　田賀佐太郎

●●●●沿岸航路視察出發

西沿岸航路視察の爲め協同組主立石幹氏山本商業會議所書記の兩氏は目下釜山碇泊中の櫻井丸に搭乘すべく昨日午後仁川驛發にて釜山に向へり

公人私人

▲木戸友藏（二十三聯隊一等主計）一昨日水原に向ふ
▲鹽谷時敏（文科大學講師）一昨日平壤より入京佐伯旅館
▲田中讓（東京石川島造船所技師）一昨日入京巴城館
▲土肥信（同上）同上
▲小川頼次郎（同上）同上
▲栗本玉次郎（憲兵隊附一等主計）一昨日入京金澤旅館
▲伊藤作太郎（同上）同上
▲前田敬一（同上）同上
▲朝比奈弘（同上）同上

●近事片々

▲頭山滿岡本柳之助等の發起せる私立國民議會は全國より八百名の代議士を選むと
▲此撰擧には無論賄賂も行はれず政府の干涉もあるまじ眞個民意を代表する機關乎
▲此決議は全く國民の輿論として政府に反省を乘る力あり帝國議會の監督ともなる
▲韓國在住邦人も此方法に依りて殖民議會を開設しては如何今の場合或は必要あらん
▲私立殖民議會とし隨意出席とするも可也議員を撰擧するも可也是甚だ面白からん
▲韓國經營邦人の發展に就て各自意見を鬪はして研究するとせば蓋し其効大ならん
▲何事も官憲に據らんとするは非也自治の民は官憲に依ずして自ら發展の法を謀れ
▲官憲も亦不要の干涉を爲さず邦人をして隨意に發展せしめよ是對外經營の本義也
▲在住邦人は此私立殖民議會によりて初て自己の意見を發表する機關を得るに至る
▲私立と雖も此會の決議は在住邦人の輿論なり此決議は大に母國同胞を動かすに足る
▲一方には在住邦人團結力を增さしむ八道散在の邦人團結すれば何事か成らざらん
▲斯くして自ら治め自ら發展せば何等官憲の拘束を受る所なし是れ眞個自治の民也
▲丸山警視總監某縣知事に轉任と內決せりとの電報なるが果して左る事實ある者乎
▲丸山總監は顧問時代より韓國警務に盡瘁せられ其道に精通せらる轉任は惜むべし
▲大韓日報は解停せられしも朝鮮日々は未だ解停せられず何ぞ停止日數の長き事や
▲機關紙を有する統監府は堂々論戰せしむべし弱者を威壓するが如きは面白くなし
▲全体斯迄に言論を抑壓する程の問題にあらず當局の所置余りに大人氣なきを笑ふ
▲政友會の大岡育造氏近來桂首相の門を潜かに叩きて頻に取入らんとする風聞あり
▲權門に取入るの巧妙なる今の世恐らく硯海君の右に出づるものなからんとは眞乎
▲梁起鐸事件も帝國政府より英國政府へ交涉の結果條件付にて引渡すことゝなれり
▲先づ是で此事件も一寸段落付きたるが併し條件とは如何なるものなる乎是れ問題
▲士國軍隊改良に付青年黨は英佛及日本に教官貸與の照會をなすの提議を爲せりと
▲日本も此際好意を表して士國に力を添へ[illegible]

短編小説

指環 上の三 青楓作

「君は僕の胸中を憫察して呉れんのか、君までか同情の涙を注ぐんのか」

中尾の眉はキリ〳〵と昂つて、兩眼はキロリと光る、言葉も段々と荒くなる。

元來中尾は何方かと云へば、溫厚寡言の方で勃々たる元氣ある活動の青年ではない、そして溫厚寡言の士は、時として人目を駭かすの行爲を敢てすることが往々有勝であるが中尾も確に此の氣質を承けて居るのであらう、何うかすると之が平常の中尾かと疑はるゝ程に、精神上に一大變化を來すことがある、彼が數日來の煩悶と懊惱とは、ま將に此の性癖に襲はれつゝあるのではあるまいか。

「無論、僕は萬斛同情の淚を濺ぐさ」と立見は冷へ切つた茶に咽喉を濕して、

「だがね君、成程芳子樣は君に對しては、非常に熱中もして居つたし、夫れに充分な親切も盡して居つたことは、僕は知つて居るさ、併しそれは單に一時的に過ぎなかつたのだと思ふよ、見給へ此頃の芳子樣の態度を、以前の芳子樣とは、大に違ふよ、最も君の眼には何う影つるか知らんがね」

立見は、友の顔を覗くやうに眺めるのであつた。

「して見ると、君は此のレターを捏造と云ふのか」

中尾は、怨めしそうに手紙を見る。

「僕は、全く虚構の手紙だと思ふ、元來女子なるものは、虚榮心に富んで居る動物だ、女子の罪惡は、殆ど此の虚榮心の結果だと云ふも過言ぢやあるまいと信ずる」

立見は、再び語を繼ぐのである、

「それで僕は君に忠告しやう〳〵と考へて居たが、君は殆ど芳子樣の爲めに生き、芳子樣の爲めに所有苦戰苦鬪を續けて居るのだと思ふと、强に忠言も出來ず、實は躊躇して居つた次第だ、併し僕は竊に期して居つたよ、アヽ愛する友の悲慘な歷史を正面に見るのじやあるまいかと、ね君」

中尾は、之には別に應答やうともしなかつた彼は再び頭を俛れて、深くも想ひに沈むのである。

「人生は、斯ふも果敢ないものであらうか僕の半世は、アヽ夫は實に夢であつたのだ而も夢も短い夢であつた」と苦しそうに胸を押へるのである、立見は、苦悶の友を慰めやうと、

「そう〳〵まア夢だと諦め給へ、夢……素より果敢ないものさ、そして一度は、必ず覺醒ねばならぬ原則を以つて居るのは、即ち夢だよ、君は今將に覺むべきの時機が來たのだ、覺むべき時に醒めないと後日で悔ゆるの嘆を招くよ」

「夢は、何處永劫に繼續ないのだらうね、君、僕はそれが恨まれるね、だが僕は此の夢は醒め度くない、長へに續かしたい」

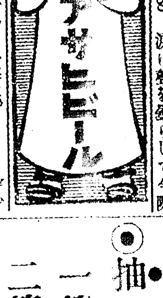
久方振の月は、淡く冴ゑて、涼しい風がソヨ〳〵と教會堂の屋根から吹いて來る。

●女丈夫淵澤能惠子

▲韓國貴婦人の教育者 單身韓國に渡り嚴妃に說き日韓婦人會を起し貴婦人教育の目的にて女學校を開きたる女丈夫淵澤能惠子(五十七)は盛岡市の產にして明治十二年工部省の雇外人バセル夫人に從ひ醫學を修むる目的にて亞米利加に渡り英語を學び十五年一月歸朝し同年夏京都の同志社女子部に入學して十八年六月迄修學したる此間に父を失ひ家產傾しかば醫師たらんとする志望を翻し麻布鳥居坂の英和女學校の教師となり桂侯爵夫人、三井男爵の前夫人などの家庭教師となりて英學を敎へ居たるが十九年高田の私立女學校の校長となり赴任したるに不幸にも間もなく學校がつぶれしかば福岡英和女學校の教師となり其の後歸京して諸所の女學校に教鞭を執り居る中今の岡部司法大臣夫人に勸められて三十九年韓國に渡りて嚴妃に面謁し日韓婦人會を起し嚴妃は總裁に義親王妃は副總裁に東宮武官長趙東潤母堂は會長に李止鎔夫人は副會長となり會員は貴婦人連七十五名と註せられたり元より淵澤女史の目的は女子教育に在りて之を貫かんが爲め此婦人會を起せしものなれば相談の上嚴妃より借て貰ひた京城磚洞の會の事務所を女學校となし、太皇帝陛下より普信舘と云ふ勅額を賜りたれど旅舘に似通たる名なりとて奏上し更に明新女學校と云ふ勅額を賜るに至れり前記の趙東潤は校長女史は敎頭となり卅九年五月開校せしも貴族の少女僅に五人生徒となりしのみなりしも七月には十五人となり昨年の夏には三十四人となり現在は七十六人となりたるが年齡十七八歲の者多く中には廿七八歲の生徒もあれど是等は多く後家にて嚴妃が不幸なる後家を敎育家にして慰安の道を授けんが爲め入學させたるものなりし科を豫科二年本科三年と定め敎授科目は日本語、日韓作文、數學、造花、編物等にて生徒は造花編物には器用にて作文も巧みなれど數學は元より數學の思想なき同國婦人のこととなれば之を敎ゆるに一方ならず苦心したるが目下は上級生に分數位迄敎ゆる程になれりと學校の入費は悉く嚴妃の支出に關りたれど昨年英親王より基本財産として四個所の田地を下賜されたれば夫等の所得を校費に充て居る由同校敎師は野崎秀子(三十)松田靜子(二十)島村若子(三十)長谷川夏子(四十)の四名なりと女史は實に有髯男子も耻しき女丈夫と云ふべし(萬朝報)

●白蓮花(二)

春子は菅野家へ嫁入して後も不相變女學校に通ひ居りしが成績はいつも優等にてソレに學校より歸りても夫の身にまはりは申すに及ばず家事向萬端の整理もまだ年端の行かぬ女にしては感心な程行き屆き居るより一家はいたつて圓滿にて夫婦の間も睦ましく餘所の見る眼も羨ましき程なりしがサテ儘にならぬは浮世の習盈つれば缺くる習への通り春子が大尉の許へ嫁ぎし間もなく彼の日露戰爭起りたれば大尉には動員令の下ると共に雄々しくも出征の途にと就きたり固より一命を君國に捧げし國家の干城たる身は此の危急の場合女々しくも愛戀の絆にはださるべきにはあらねど、蜜より甘まき兩人の情交は此の生死を期せざる離別に色にこそ出さね其の胸の中は嘸ぞや如何ばかりなりしぞや春子は夫の劍に取り縋り「貴郎身体を御達者に隨分天晴れ功名遊ばして御凱陣を……」と、淚に聲を曇らして今際の別れを惜むも纖弱き女心のサテも是非なき次第とこそいふべけれ春子は夫の出征後專ら夫の武運長久を朝夕神佛に祈りて不相變晝間は學校に通ひ居りしが兩人の間は前世如何なる因緣にや現世にて添ひ合ふことのいみじくも緣の薄きものと見ゑ春子が朝夕の祈願も終に何等の効目だになく夫は滿州に於て果敢なくも名譽の戰死を遂げしとの電報端しなくも半年許りを經て春子の許へと達しにき(つゞく)



●路頭に迷ふ

石川縣上通郡光津村字正津六七六番船乘業村田虎吉(五二)は三月初旬生れ故郷を跡にして安東縣に渡り鴨綠江の上流より下す筏流しを業とし居りしが不圖病に罹りたる爲め非常の困難に陷り其日の口さへ糊することの出來ざる始末となりしを同地在留の同胞等が之を見兼ねて十三圓を集めて惠みしかば虎吉は嬉し淚に暮れて此金を懷中し京城に來り何かの仕事に有り付かんと口を尋ぬる中懷中の金は何時しか遣ひ果し今は一文もなくなりて此先如何にして暮さんと途方に暮れしも金の落ち來る道理もなければ詮方なくも上の救助を願ふより外に道なしと一昨日南部警察署に出頭し斯く〳〵の次第だから救護を願ひ出たるに詰合の警官は見れば壯健なる體質なれば何かの職業に就かんこそよけれと懇々說き聞かせ岡山縣人會に申出る樣申渡されたれば虎吉は其意を謝して立去りたるが南大門內櫻屋旅館に於て引受くることゝなれり

●韓小兒死体の抛棄

阿峴洞派出所巡査が一昨日午後七時麻浦街道を巡廻中城皇堂の南方下水溝の中に一個の怪しげなる菰包みあるより巡査は何物ならんと其の菰を引上げ見たるに何ぞ圖らん可憐なる小兒の死体にて何者かに拋棄せられたるものならんと早速此旨を西署なる本部に急報し山本警察醫の來臨を待つて檢視を遂げたるに年齡は二歲位死体は全身蒼白色を呈し死因に病氣にて拋棄せられて全く死したるに非ずして死したるものを拋棄したるものなること判明せしも誰れの所業なるかは不明なれば同日阿峴洞二十四統二戶洞長李致子に引渡し假埋葬せしめたり

●醉ドレヨボ

竹洞統戶不詳無職金俊元(四十)は一昨日午後八時酒を飮んで大に醉ふそれまではよかりしも一寸醉狂の果てが大道で立小便而して行人に對し亂暴を働くより今まで諭しつゝありし巡査も耐りかね若し放任し置かば如何なることをなすやも計られずと警察署へ引致の上醉の醒むるを待つて大に說諭を加へ昨朝七時放還さる

●小町女郎釜山にて押へらる

皆春樓の一枚看板として數多の自然主義者を惱殺せし小町め眼尻を下げしめ涎を垂らさしめたる小町女郎は過日其好やんの大和田某といふ遊人の男と諜し合せ同人が日本に歸るから南大門まで送ると云つて出た切催一向歸り來ぬいにぞ同樓にては大に驚き早速に逃走屆をなし探索方を願ひ出で居りしが此方の小町は諜し合せし如く大和田と二人手に手を取りて南行列車に乘り釜山に馳落し同地牧の島の左る所に潛み居たるを同地の巡査に嗅ぎ出されサテ怪しき奴と內々取調べしに前記の次第と判りしかば直に同地警察署に留置し此旨を皆春樓に通知せしに同樓よりは十九日の夜身柄を受取りに來るとの電報ありたれば昨夜は多分古巢へ引戾されしならんも大和田と小町との間は情夫など云ふ程深き仲にあらず其筋の人が睨んだ所では兩人の間は金錢上の利益を共通せん爲めの驅落らしく小町と大和田とは樓主を潰して再び他に身賣りせんとの企みもあるべく又小町の朋輩の女が佐須土原の遊廓に居るを以て大和田は小町をして其女を引出し玉を稼はんと企みしものゝ如しと爾は大和田は山口某なるものを賴みて小町を佐須土原の遊廓に沈め其身の代を以て皆春樓との手を切らんと警官と相談せしと云へば果して引戾しや否は知らず

●流行病

若草町二丁目八十七番地木村サダ(三十)は腸窒扶斯に罹り十八日大韓醫院へ南治町三丁目百十六番地島田トメ(十七)は赤痢に罹り十九日青坡病院へ入院せり

●一昨夜の自然主義者

一昨夜自然主義者の數を調べて見れば大桝屋五、高島屋五、南山樓四、松榮樓四、月下樓三、淸月六、皆春八、第一本店六、井門支店二、第一支店九、京城樓七、山遊樓三、合計六十二、此揚り高三百四十九圓十五錢なりしと

●歌舞伎座替狂言

同座本晚の替り狂言は紅葉山人原作「あにき」四幕七場にして重なる割役は左の如し

あにき又吉(大山)鍛造妻れ高(桂)富五郎妻れ新(吉野)一子米太郎(中村)淸水鐵造(山路)保坂留五郎(小泉)副官浦上中尉(酒本)近所の婆お熊(北秋)茶店女(美咲)聯隊長栗島大佐(伊東)

●壽座本晚の語物

同座に於ける竹本鳴八一座本晚の語物は左の如し

御祝儀寶入船(入登)妹脊山芝六住家(虎若)梅野由兵衛長吉殺し(浪尾)先代萩御殿場(千浪)日蓮記勘作住家(新小浪)一の谷三段目(浪玉)心中天網島時雨炬燵(鳴八)三味線(鶴澤浪圓)入切れしゆん傀兵衛堀川の段(春日靜夫)

東京淺草觀世音
名物 紅梅燒
高等衛生茶用煎餅
あまから鹽煎餅
中元御進物用に適し腐敗の憂なし
京城南山町二丁目天眞樓前
梅林堂

老妓 茶羅次の身上話（十六）

◎大津事件の車夫が求婚

如何ですれ安くないじやアありませんか此手紙で見るとれちやらといふ女は素敵な美人の様に思はれますが本物は御覧の通りの代物で何とも、ハヤれ氣の毒さま見た様な次第です無駄は抜きにして其後のお話を致しましよう……夫りやア餘ッ程不思議ですから……新聞に出たも手紙が來たり致しましたので人力車夫一件が大評判になつちまいまして人の悪い方々などには酷く冷かされたものですが中には親切にちやらちやん彼方でも彼アいつて寄越す位だから萬更でもこくする様な事もあるまいからお嫁さん決心をして往つて見たら如何なんていつて與れる藝妓もあつたので自分も往きたい樣な氣もしましたがツウかさいつて決然往かうといふまでの思ひ切りがつかないので占者を見て貰うやら御みくじを取つて見るやら其當時は今考へると可笑しい樣な騒ぎだやつたのです然し寫眞を送つて與れといふ手紙だから夫れだけは何の造作も無い事故直ぐに送つてやるにしても御覧の通りの此顔ですから若し本物の寫眞をやつてイヤハヤ飛んだ拙い顔だの何かいはれ愛憎をつかされるのも厭だと今と違つて其の頃は未た色氣がありましたから身がはりの寫眞を送る事に定めツザ〳〵淺草の仲見世まで足を運んで寫眞屋さんの店頭に往つて見ると種々の寫眞が並んで居て吉原の花魁衆などは一枚五錢の札が付いて居ましたが妾やたいらゑさんの寫眞はどれでも撰り取り五厘の中に埃だらけになつて突き込んであるぢやアありませんか人を馬鹿にして居ると思つたから其處にあつた自分の寫眞は一枚殘らず買い取つて若し寫眞屋さん此寫眞がまだ他にあるなら出して下さいスッカリ妾が頂きますからッていふと寫眞屋は濟したもんで其種は賣れが違ふムいますんで其處にある丈ッきや仕入れてありませんといつて煙草をふかして居るのでしせう癪にさわりましたが寫眞屋をつかまへて喧嘩も出來ず虫を堪へて此れならばといふ別嬪さんの寫眞を一枚二錢五厘で買つて來て早速返事とゝもに金澤に送りましたが時日を經つて金澤の消印のある小包が妾の家に届きましたから此りやア、キット人力車夫から何んか寄越して下すつたのだろうと裏を返へして見ると出し人の名も無けりやア所番地も書て無いのです變だとは思ひましたが届け先は確に妾に相違ありませんので封を解いて開けて見ると中には紫に染め上げた唐縮緬の襯布と兩枚が這入つてるのでしよう浮世新聞のポンチを見て誰かゞ悪戯をしたに極つて居ますが今だに夫れは何人だか判然ません

●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月金
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西署西小門通 京城新聞社 電話六三番